

トピックス

1. 土業に生きる

2. 皐月～希望という名の花～



福留経営労務管理事務所  
姫路龍馬会  
社会保険労務士・行政書士  
福留章

# 龍馬通信

No. 5

2018年5月号

## 皐月～希望という名の花～

五月の和名は「皐月（きつき）」。「皐」という漢字は白い光を放出する様子を表したものとされていますが、五月のまばゆい光にぴったりの漢字だと思います。春爛漫の花の季節から、光あふれる新緑の季節。日本では五月の初めにゴールデンウィークがあり、海外旅行や国内の観光旅行に人々の大移動が出現します。四月に夢を大きく膨らませて、社会人としての第一歩を踏み出した新人にとって、五月を越えることは一つのやま。世に言う「五月病」というやつである。最近の若い人は、何事によらず脆弱だと言われます。豊かな環境で育った人達は、何事にも我慢強く立ち向かうということができず、何でもないことに怒り、恐れ、尻込みをする。自分のしたいことには人一倍熱心だが、こと仕事のことになるとヤル気がなくなってしまいます。適応障害とか新型うつとかが大流行である。かく言う私も四月に大学に通うため、多くの人の見送りを受けて盛んに故郷を離れ上京したが五月になって人恋しさに即、帰省した苦い思い出がある。若い人達には、五月の清澄な空気を胸一杯に吸い込んで、今そこにある仕事に立ち向かってほしい。我慢、辛棒、忍耐のその先にはきっと希望と言う名の花々が咲いているに違いない。



## 随筆 『龍馬と私』～初鯉、戻り鯉～

初鯉とは、晩春から初夏にかけて漁獲される、フィリピン沖海域から黒潮によって北上する鯉の事を言い、小型で身が引き締まっていて脂の乗りがまだ十分ではない鯉を言う。「目に青葉、山ほととぎす、初鯉」と言って関東地区ではこの鯉を初夏の風物詩として好んで食する。

戻り鯉とは、黒潮を北上して、カムチャッカ半島につきあたり、Uターンをして黒潮を逆流し南太平洋に戻ろうとする鯉を言い、大型で脂がのって少し身がやわらかくなった鯉を言う。関西人は一般にこちらを好む。

土佐の一本釣りは有名で、カツオドリの群れを目印に鯉の群れを捕捉すると、10t余りの小船で全速力で群れを追う。舳先から一斉に放水された、その水の動きを餌と見間違えて食いつく。鯉を釣る釣針には、「もどり」がなく、ひっかけては上空に放り上げ船上の上空で、針が外れて鯉が船上に落ちる。船上の中央は三角の山になっていて、鯉は左右どちらかにすべり落ち、水槽に放り込まれてしまう。30分から1時間ほど戦闘は続く。勇壮かつ豪快であり仕掛けとしては緻密である。



そうして釣り上げられた鯉の調理方法としては、刺身もありだが、何と言ってもたたきにして食する人が圧倒的だ。たたきは藁をかまどの火の中に放り込む、一気に2～3mの炎が上がる。さらに藁を投入して火力を加減する。4つ程の節状になった鯉をフォークの親玉のようなものにのせ、藁の炎の最も火力の強いと言われる中心部に差し入れる。脂ののった戻り鯉は、その火力に約5分

の4程の大きさになる。皮と身の部分を焼いて、皮と身が分離する、プチプチという音がする頃を見計らって火から離す。現地（高知）ではこれを氷水に入れてしめたりせず、そのまま生温かい状態で食べる。薫の香ばしさが残る皮の部分とレア状の身の部分のコンビネーションが「鰹のたたき」の醍醐味である。柑橘系の醤油ダレか塩で食べる。最近では若い人を中心に「塩たたき」が受けている。豪快さと絶妙な味を兼ね備えた「鰹のたたき」は、土佐を語る時、決して外すことはできない。

龍馬は当時の人としてはグルメの人であったようで、闘鶏などで使われる「しゃも」などを好んで食べている。大皿に盛り込まれた鰹のたたきを肴に、好物の酒をあおる龍馬が私の胸にいる。にんまりとした顔をして…。

## 名数「五」

中国の陰陽五行説によれば、この世のあらゆるものは「木・火・土・金・水」で構成されている。従って五という数は、中国では完全、完結の数であり、聖なる数とされている。

- ・五常 仁義礼智信（人が守るべき道徳）
- ・五儀 聖人 賢人 君子 士人 庸人（人品、人格の分類）
- ・五倫 父子 君臣 夫婦 長幼 朋友（人間関係の分類）
- ・五節句 1/7人日節句 3/3上巳節句 5/5端午節句 7/7七夕節句 9/9重陽節句
- ・五穀 稲 麦 粟 大豆 小豆（古事記）
- ・五穀 米 麦 粟 豆 稗（現代）
- ・五臓 心臓 肝臓 脾臓 肺臓 腎臓
- ・京都五山 南禅寺（別格） 天龍寺 相国寺 建仁寺 東福寺 万寿寺
- ・五街道 東海道 中山道 甲州街道 奥州街道 日光街道

飯倉時武 編著 「日本人、数のしきたり」(青春出版社)より

## 士業に生きる

士業にとって何より嬉しい事は、定年がなく、やる気があれば生涯現役が可能な事である。今日、明日やる事があって一か月先の予定も入っている。いい歳になったが、今でも新規契約の話もある。衛生管理者の受験講座もメンタルヘルスやリスクマネジメントのセミナーの引き合いもある。自分自身まだまだやりたい事がある。例えば各社の相談窓口の受け皿になる事だ。専門医でもなくカウンセリングのプロでもない。ただ労働問題については、20年以上の経験があるので労使の双方にアドバイスくらいはできると思う。安全衛生委員会の立ち上げももういくつかしたいと思っている。安全と衛生、無災害については、委員会を立ち上げ、継続して活動していくことが不可欠だと思っている。



時代は過去の経験にはないスピードで変化し続けている。ITとAIの進化は目を見張るばかりだ。人類にとって幸福な事がどうかは別にして、人々はその進化に追いつこうとしてあえいでいる。そんな時代を生き抜くためにも、やはり生涯学習が必要なんだろう。人が学ぶことに限界はなく、制限もない。プロである為には次々と変わっていく法律改正を自分のものとしなければならず、そこから適切なアドバイスが可能となってくる。まさに、永遠に生きるが如く、学ぶ姿勢が必要となる。老いていく体にあがらないながら、常に前に向かってポジティブに行動していかなければならない。少なくなった未来への不安、死の恐怖もある。それを断ち切って前へ進まねばならない。明日死ぬ如く、今日を生きることが何より求められる。

(参) ガンジー 「永遠に生きるがごとく学べ 明日死ぬ如く今日を生きよ」